

2019年度
事業計画

社会福祉法人 東桜会

《社会福祉法人東桜会の理念等》

〔法人の目的〕

私たちは、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として事業を行います。

〔施設運営理念〕

法人の目的を達成するため、公平で公正な開かれた施設運営を永续し、地域の拠点施設となるように努めるとともに地域福祉の向上に資するよう努めます。

〔施設運営方針〕

利用者の多様なニーズに応えられる職員を育成し、利用者が、生きがいを持ち明るく快適な生活ができる住環境の整備に努めます。

〔サービス提供理念〕

利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重した質の高いサービスを提供し、利用者の生活の質の向上を目指すとともに、利用者の自立を目指し、利用者と共に生き、利用者の回復を目指します。

〔サービス提供方針〕

サービスの利用を希望する人たちが、利用者自らが受けられるサービスを選択し決定できる環境を作るとともに、利用者の残存能力を発見し、引き出し、活用ができるような環境を作ることに努めます。

《社会福祉法人東桜会 2019年度事業計画》

〔1〕基本方針

1. 法人・施設の中・長期計画の策定に取り掛かる。
2. 法人の理念、施設運営方針等について再確認し、表現方法等を検討する。
3. 働きやすい職場環境を目指し、職員の採用、定着に努める。
4. 地域に存する社会福祉法人として、地域の様々な団体組織・人々と連携して地域に貢献する。

〔2〕経営施設及び事業の種類

1. 指定を受けた介護保険事業（介護予防・日常生活支援総合事業を含む）を経営する
 - (1)介護老人福祉施設 麻機園
 - (2)短期入所生活介護事業 麻機園
 - (3)地域密着型通所介護事業 麻機園デイサービスセンター
 - (4)訪問介護事業 麻機園ヘルパーステーション
 - (5)居宅介護支援事業 麻機園ケアプランサービス
2. 社会福祉事業として次の事業を行う
 - (1)軽費老人ホーム ケアハウス桜花
3. 静岡市から委託を受けて次の事業を行う
 - (1)要支援、要介護認定の訪問調査を行う（麻機園ケアプランサービス）
 - (2)静岡市高齢者一時保護施設確保事業を行う（短期入所麻機園）
4. 地域包括支援センターから委託を受けて次の事業を行う
 - (1)介護予防プランの作成

〔3〕地域社会に貢献する取組み

地域社会に貢献する取組みとして、平成29年度から実施している施設を開放した地域住民へのサービス（さくらカフェ）を継続すると共に、更に地域の団体組織・人々と連携して地域に貢献し、福祉の向上を目指す。

- ・地域の老人会等のレクリエーションや生きがい支援・介護予防等の活動のサポートをします。
- ・地域の催しや訓練へ参加し、地域とのつながりを深めていきます。
- ・地域包括支援センターと連携し自宅や集会所等に訪問するなど、在宅高齢者の支援を行います。

〔4〕評議員会、理事会の開催予定

- | | | |
|---------|-----|---|
| ①監事監査 | 5月 | 平成30年度事務事業及び決算の審査 |
| ②第1回理事会 | 5月 | 平成30年度事業報告、決算及び定時評議員会予定など
次期役員候補者の選定 |
| ③定時評議員会 | 6月 | 平成30年度決算認定、役員の選任 |
| ④第2回理事会 | 6月 | 理事長、副理事長の選定 |
| ⑤監事中間監査 | 10月 | 2019年度中間監査 |
| ⑥第3回理事会 | 10月 | 2019年度補正予算、事務事業の報告等 |

- ⑦第1回臨時評議員会 10月 2019年度補正予算承認 ※補正予算がある場合
 - ⑧第4回理事会 12月 事務事業報告等
 - ⑨第5回理事会 3月 2019年度補正予算及び2020年度事業計画及び予算など
 - ⑩第2回臨時評議員会 3月 2019年度補正予算及び2020年度事業計画及び予算承認
- ※予算又は事業計画等に係る議題のあるときには臨時に理事会、評議員会を開催する。

〔5〕建物・設備の修繕・改修等の予定

麻機園及びケアハウス桜花の建物本体及び付属設備、設備・備品等の経年劣化の著しい箇所について大規模な修繕又は改修等を計画・予定するとともに、職員の業務軽減に資する設備・用具等の導入を検討する。

1. 特別養護老人ホーム麻機園

- ①受電設備改修修繕等
- ②空調設備の更新修繕等
- ③電話設備更新
- ④厨房機器・設備更新
- ⑤エレベータ、ダムウエータの改修修繕
- ⑥居室網戸、フェンス等の改修取替
- ⑥介護記録等のシステム導入を検討
- ⑦介護ロボット等介護機器の導入を検討

2. ケアハウス桜花

- ①外壁改修工事
- ②電気使用量等集中監視装置更新
- ③電話設備・課金装置更新
- ④建物周辺地盤沈下への対応

《特別養護老人ホーム麻機園》

〔1〕基本方針

- 1. 利用者ご家族の要望に的確に応えられるよう、各職種間の連携を密にする。
- 2. 利用者への生活援助者としてふさわしい職員になるよう資質の向上に務める。
- 3. 職員体制等を整え、介護保険制度の定める条件を遵守して事業を行う。

〔2〕利用者処遇各職の目標

1. 相談員及び介護支援専門員

(目標1) 入所者がその人らしく安心して暮らせるような環境創りに努める。

- ・入所者の思いを聴く機会をつくる。

行事等で入所者が集まる時に、行事等について意見を聴き、記録として残す。

入所者個々に話を聴いた時には、記録を残しカンファレンス等に役立てる。

- ・家族の希望、意向を伺う機会をつくる。

年1回家族説明会を開催する。

面会時等、家族の希望や意向を聴いた時には、記録を残す。

- ・入所者の様子をご家族へ報告する機会を増やす。
- ・入所者、家族の意向をもとに、その人らしく自立した生活を目指す介護計画を作成する。
- ・ケアプランの勉強会を開催する。

(目標2) 職員研修を行なう

- ・職員会議、介護職会議を利用し計画的に職員研修を行なう。
- ・職員全員が参加できる開催方法とする
- ・職員の知りたいことを研修内容に組み込めるように、職員の意向を聞く機会を設ける。

(目標3) 入所率を98%以上に保つ。

- ・優先入所検討委員会を適宜開催する。
- ・入所申込者に「麻機園に入所したい」と思ってもらえるようにする。

施設見学の際に麻機園の職員や入所者、施設の明るい雰囲気を感じてもらおう。入所に結びつかなかったとしても、麻機園は明るくて感じがよかったとイメージアップに繋がるようにする。

- ・他施設の特養相談員、老健相談員、ケアマネジャー等との情報交換を行ない、連携できるようにする。

2. 介護職

(1階の目標)

- ・入所者に自分で出来ることの喜びを感じてもらえるように援助する
- ・入所者全員と毎日会話する時間、コミュニケーションを図る時間をもつ
- ・入所者が心地良いと感じてもらえるような言葉遣い、声かけの仕方をする
- ・褥瘡の予防と改善に努める
- ・入所者の身体機能の向上を目指して、一人ひとりに合った機能訓練を一緒に行なう
- ・1階職員同士、申し送りを確実に行ない、統一した介護を行なう

(2階の目標)

- ・優しい表情・口調・態度で接する
- ・褥瘡の予防と早期改善
- ・担当居室内の掃除・整理整頓
- ・担当居室内の書類管理を行う
- ・離床後の布団の整理整頓、臥床後の衣類・車椅子・靴・膝掛け・カーテンを整える
- ・報連相を徹底させ、統一した介護を行う
- ・携わる仕事に責任を持つ

(3階の目標)

- ・離床をしたら布団をしっかり畳み、入所者の身だしなみを整える
- ・入所者に声をかけられたらゆっくりと話を聴く
- ・褥瘡の予防、早期改善に努める
- ・日常生活の中で本人が出来ることを維持する
- ・フロア内の清掃を行ない清潔を保つ

- ・手洗い、うがいを行ない感染予防につとめる

3. 看護職

その人らしく、安心して快適な生活が出来るように健康面から援助する。

(目標1) 生活を支える看護

- ・介護職と協力し、その人に応じた日常生活が営むことができるよう看護援助を行なう。

(目標2) 予防を意識した看護、入所者の健康を維持するための対策

- ・他職種と連携を図り利用者の状態変化に対応する。
- ・毎日手洗い、うがい、設備備品手摺り把手等の消毒、建物の換気を実行し感染予防に努め、他職員にも啓発する。
- ・利用者の健康管理の年間計画を立案し実施する。(体重測定、採血、胸部レントゲン、予防接種)

(目標3) 生活の延長上にある自然な看取りへの看護

- ・施設での生活を続けながら、最後までそのひとらしく穏やかな時間を過せる様な環境を作る。

4. 機能訓練指導員

(目標1) 入所者の残存機能の維持・向上を目指し、安全な生活が送れるよう訓練する。

- ・個々の残存機能を把握し、多職種と情報交換を密に行ない、個々に適した目標を設定し機能訓練に努める。
- ・個々の目標に向け、週に2回以上の個別機能訓練を実施する。
- ・生活の場に即した動作の訓練、生活を豊かにする訓練を行ない、その人らしく自立した日常生活の維持、向上に努める。
- ・3ヶ月に一度、目標の評価・見直しを行ない利用者又は家族に進捗状況を説明する。

(目標2) 楽しんで生活してもらえるように援助する。

- ・集団レクリエーションを1日1回30分間実施し、楽しさ、喜びを伴い、心身の健康や生活の質の向上に努める。
- ・季節を感じてもらうため、毎月季節のカレンダーの塗り絵を行ない居室に掲示する。また行事にちなんだ壁画作りを行なう。
- ・行事に積極的に参加しコミュニケーションをとる。また園外に出る機会を増やし日常の生活を楽しんでもらえるように援助する。

5. 栄養・給食

(目標1) 安全で満足感を味わえるような食事を提供する。

- ・旬の食材を取り入れ、季節を感じられる献立や料理を充実させる。
- ・食べる会を月1回実施する。
- ・嗜好調査を年1回行う。
- ・衛生管理を徹底し、感染症対策に努める。
- ・デイサービス利用者とおやつ作りを年4回実施する。

(目標2) 栄養管理を徹底する。

- ・個々にあった栄養ケア計画書を作成する。

・他職種と情報交換を密にし、利用者に適した食事サービスに努める。

(目標3) 災害時の給食体制を検討する。

・災害対応給食マニュアルを整備する。

・備蓄食品の管理・見直しを行う。

[3] 会議・研修

1. 会議の種類

(1) 全体

①職員会議 ②部門連絡会 ③在宅利用連絡会 ④厚生委員会 ⑤研修委員会

⑥広報委員会

(2) 麻機園

①優先入所検討委員会 ②入所判定会 ③介護職会議 ④リーダー会議 ⑤パート会議

⑥行事担当者会議 ⑦給食会議 ⑧安全委員会 ⑨衛生委員会 ⑩事故防止委員会

⑪感染症対策委員会 ⑫身体拘束廃止委員会 ⑬褥瘡予防委員会 ⑭食事委員会

⑮排泄委員会 ⑯入浴委員会 ⑰事故検討委員会 ⑱サービス検討会 ⑲マニュアル検討会

2. 在宅部門を含めた全体会議を主催し職員相互の連携を計るとともに、定期的に部門毎、職種毎の会議を開く。

3. 委員会や担当者会議を開催し、利用者処遇の向上や、効率的な介護体制作りに努める。

4. 研修会、研究会、講習会等へ積極的に参加し資質の向上に努めるとともに、出席した職員の報告会を行う。

[4] 地域交流等

1. ボランティア及び実習、体験学習等を受け入れるとともに、幼児や学生の訪問を受け交流する。

2. 新たなボランティアの受入れをすすめる。

[5] 施設・設備

1. 建物及び付属設備等の老朽化に伴う必要な改修、修繕又は取替等を行う。

2. 利用者処遇の向上のため必要な住環境整備を行う。

3. 什器設備の適切な維持管理を行う。

[6] 防災対策

1. 地震、火災時に備え、職員の防災に対する知識を向上させると共に、定期的に訓練を行い、設備の使用法の修得、避難誘導技術の向上を目指す。

2. 災害時のマニュアルの見直し及び体制を整備する。

[7] 感染症対策

年間を通じて感染症に対して注意を払い、情報の収集に努めると共に、職員の感染症対策に対する知識を向上させる。

《ケアハウス桜花》

〔1〕基本方針

安心して明るく健康的な生活が送れるよう、入居者個人に合わせた日常生活の支援に努める。

〔2〕運営

(目標1) 継続的な営業活動を行い入居申込者を増やす。

- ・年間入居率90%以上を目指し、入居待機者を確保する。
- ・居宅介護支援事業所をはじめ、地域包括支援センター、医療機関等の地域連携室等へ訪問し施設の紹介、空き状況など情報発信する。
- ・地域連携担当と協働し、町内会、民生委員など地域に施設を知ってもらう機会を設ける。

(目標2) 施設の社会化をめざす。

- ・地域住民やボランティアの受入れ、行事の参加などで地域への参加を図る。
- ・隣接施設と協働し施設の機能を地域の中に浸透させていく。

〔3〕入居者処遇

(目標1) 健康で可能な限り自立した生活の場づくりをめざす。

- ・日常生活や健康について相談しやすい環境を作る。
- ・服薬内容の把握、かかりつけ医との連携、適切な助言をして疾病予防に努める。
- ・年に1回の健康診査、結核健康診断など受診できるよう情報提供する。
- ・必要に応じた介護保険サービスや施設サービスを円滑に利用できるよう提案する。

(目標2) 残存機能と生活意欲の維持の向上

- ・ボランティアや地域住民を受け入れ、地域とのコミュニケーションの機会を作る。
- ・毎日午後2時からの「にじサロン」を継続的に開催し、体を動かしたり、脳を刺激する活動を行い機能低下を予防する。
- ・毎月1回以上、季節感のある行事を企画する。
- ・健康状態や悩みなどに傾聴し入居者との信頼関係を築くよう努める。
- ・近隣地域で行われる祭りやイベントなど入居者に向けて情報提供する。

〔4〕栄養・給食

(目標1) 快適な食環境の整備に努め、安全で楽しみのもてる食事を提供する。

- ・季節の旬の素材や地元食材を取り入れ、四季の移り変わりを感じてもらう。
- ・歳時記に合わせた行事食等の充実を図り、飽きのこない食事を提供する。
- ・入居者個人の要望と嗜好を出来る限り考慮し、より満足していただける食事を提供する。
- ・年4回程度、食事会を行い普段と違った雰囲気の中での食事時間を楽しんでもらう。
- ・年1回程度、給食懇談会を行い入居者との意見交換を行う。
- ・安全安心な食事提供のため、委託業者との情報交換・相互の提案を含めた連携を徹底する。

(目標2) 栄養管理を行い、食事面からの生活の維持・向上を目指す。

- ・健康診断結果を基に栄養状態を把握し、食事面からの健康維持・増進を図る。
- ・ポスター等の掲示物を活用し、入居者への健康・栄養に関する知識の普及に努める。

(目標3) 災害時の給食体制を強化する。

- ・災害時給食マニュアルを作成する。
- ・備蓄食品の整備・点検を行う。
- ・配給・炊き出し訓練を年1回実施する。

[5] 会議・研修

1. 在宅部門と連携を計り、入居者に関するサービス担当者会議等に参加する。
2. 職員の資質向上のため、研修計画に基づき外部研修に参加すると共に内部研修を開催する。
3. 入居者処遇、行事会議、給食等に関して会議を開催する。

(会議の種類) ①桜花会議 ②入居者処遇会議 ③給食会議

[6] 施設設備

安全で快適に過ごせるよう、適切な建物・設備等の保守及び改修・修繕を行う。

[7] 防災対策

1. 地震、火災など災害に備え、職員の防災知識、技術の向上をめざす。
2. 入居者向けに土砂災害など風水害の危険を周知する防災教育を行う。
3. 公助、共助をめざし消防、地域、隣接施設等との協力体制を築いていく。
4. 防災訓練の実施、非常用食品、防災用物品などの備蓄管理を行う。

[8] 感染症対策

入居者に対して感染症に対する情報提供を行うと共に、感染症対策に対する知識を向上させる。

《在宅サービス》

[1] 麻機園ショートステイ

(目標1) 年間を通して稼働率75パーセントを目指す

- ・各部署職員(相談員、看護師、介護職、栄養士等)との情報を密にすることにより、適切なサービスが提供できるように心掛ける。
- ・新規利用時は、できるだけ多くの情報の収集に努め、本人、家族、ケアマネジャーの意向に沿ったサービスが提供できるようにする。
- ・ケアマネジャーへ空床情報を提供することにより稼働率の向上を目指す。

(目標2) 利用前に健康状態を把握する

- ・新規利用時又は状態変化時等に、家族及びケアマネジャーに敏速かつ的確に情報の提供を行い、安心して利用していただけるようにする。
- ・利用前の本人、家族等の健康状態を情報を収集し、施設内で情報を共有する。

(目標3) 感染症対策

- ・施設内で感染症が発生した場合は、家族、ケアマネジャーに情報を提供し、予定利用の有無、利用期間の変更等を調整し、本人、家族、施設に負担なく、また感染症が広がらないようにする。

〔2〕麻機園デイサービスセンター

(目標) 平均利用者数13人を目指す

- ・ご家族に、利用者の様子を送迎時や連絡帳等で報告し、安心して利用して頂けるようにします。
- ・介護支援専門員に、こまめに利用者の様子やサービスの利用状況を電話や書面にて報告することにより、信頼関係を築けるようにしていきます。新規利用者の紹介を依頼していきます。
- ・地域のボランティアの協力を得ながら、新たなレクリエーション活動や楽しみを提供していきます。

〔3〕麻機園ヘルパーステーション

(目標1) 利用者の思いに寄り添った介護を目指す。

- ・利用者を知り、合わせた接し方ができる。
- ・利用者の思いや考えを大切にす。
- ・職員の知識・技術向上の機会を持ち、ニーズに的確に対応できるようにする。

(目標2) 新規利用や増回に随時対応できるようにする。

- ・利用者28人、毎月稼働率50%を目指す。
- ・居宅介護支援事業所への報告(情報や提案)は的確に行い連携を図る。

〔4〕麻機園ケアプランサービス

(目標1) 利用者および家族の意向や思いを的確に汲み取り、自立して心豊かに在宅での生活が続けられるように支援していく。

- ・利用者および家族の本音を聞き出せるような関係作りに努める。
- ・利用者の思いが達成できるようなサービス計画を作成する。

(目標2) 医療や他職種との連携、地域資源の活用を通じてチームや地域全体で利用者の自立支援を行うことができる。

- ・医療や他職種との連携を密にし、情報を共有する。
- ・地域資源を把握し、多様なサービスを提案する。

(目標3) 自己研摩に努め、幅広い知識をもつ。

- ・研修に参加する。
- ・制度改正時等情報収集をしっかり行い、的確に理解する。